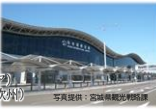


宮城県農林水産物・食品輸出促進戦略（2025年度版）の概要（中間案）

策定趣旨	2022年（令和4年）3月に策定した『宮城県農林水産物・食品輸出促進戦略（2022年度版）』の計画期間満了に伴う再改定		
位置付け	新・宮城の将来ビジョンが掲げる「富県躍進！PROGRESS Miyagi」の理念のもと、国際関連施策を総合的・計画的に推進する『みやぎ国際戦略プラン』の食品輸出分野に関する個別計画		
戦略期間	2025年（令和7年）度から2027年（令和9年）度までの3年間		
世界情勢 （戦略の視点）	✓ 世界経済の動向 ✓ 世界人口の見通し ✓ デジタル化の推進 ✓ 持続可能な社会に関する課題への対応 ✓ 諸外国による県産農林水産物等への輸入規制に関する対応 ✓ 農林水産分野及び食品分野の知的財産の侵害・海外流出への対応	国	● 総人口の減少、国内市場の縮小は不可避 ● 『農林水産物・食品輸出拡大実行戦略』を策定し、輸出目標（2025年に2兆円、30年に5兆円）達成に向けた取組を展開
		県	● 国内市場が縮小する中、我が県の農林水産業や食品産業が発展していくためには、海外への販路開拓・拡大が重要 ● 広く海外に目を向け、積極的なプロモーションや新しい商流の構築に向けた取組を展開
現戦略期間：新型コロナウイルスの拡大や周辺諸国の禁輸措置など厳しい環境下にあるながら輸出の取組には一定の成果あり			

基本理念	みやぎの“おいしい”を世界に届ける			
基本方針	（1）輸出に取り組む事業者の増加と利益拡大 （2）販路拡大による輸出品目と輸出量の増加 （3）持続的なバリューチェーンモデルの構築 （4）パートナーシップの充実			
	・事業者の取組段階に応じたフォローアップ ・マーケットイン型の輸出による継続的な受注 ・日本産食品の輸入が少ない国・地域をリサーチ ・ジェトロなど関係機関と連携し、代替市場を開拓 ・生産・加工、流通、販売に関わる事業者の連携 ・輸出先国・地域に合わせた最適商流・物流の選定 ・「オール東北」で食品輸出の取組を促進 ・仙台港や仙台空港から輸出する物流体制を構築			

現状／成果		課題		取組の方向性		事業展開（イメージ）	
輸出基幹品目	① 水産物	○アジアを中心に、 バイヤー招聘 や県産品の提案会、 産地視察 などのプロモーションを継続的に実施。 ○震災後の輸入規制で販路が縮小しているホヤの 需要創出 や、カキの販路拡大などを展開。	 産地視察  需要創出／レシピ創作	○福島原発事故に伴う処理水の海洋放出等の影響で、周辺国等の 水産物の輸入規制 に直面。 ○新たな販路開拓のため、海外市場のニーズを捉えた マーケットイン型の商品開発 が必要。	○包括連携協定を締結した 株式会社PPIH のネットワークや 店舗網 、関係機関との連携強化により代替市場を開拓し、販路開拓を推進。 ○県内企業への 伴走型支援 を継続。	 ◎新市場への挑戦 R6 メキシコ市場開拓 R6 SIAL Paris 出展／全国知事会	
	② 米	○J Aグループと連携した大ロット輸出のほか、中食、外食需要に対応する 小ロットの輸出 を支援。 ○県産 銘柄米 のほか、 玄米 食向け「金のいぶき」の販路開拓、 バックご飯 の増産支援などを展開。	 おむすび需要  健康志向（玄米）	○毎年10トン 国内の消費量が減少 していく中、海外市場に積極的に進出していくことは重要。 ○一方、輸出先では価格競争が激しく、 銘柄米の輸出は他県でも推進 する動きが活発。	○J A（全農）との協力・連携により大口のリクエストに対応できる輸出体制を構築。 ○民間企業や関係団体との パートナーシップ による海外ニーズに応じたマッチングの実施。	 ◎協働と販路共創 R6 THAIFEX（バンコク）出展／ わきたつ東北戦略会議（東北経済連合会）	
	③ 牛肉	○仙台牛の取引を希望する国内外の事業者からの相談に応じ、また、 部位別の商品提案 を実施。 ○日本酒の販路開拓（MIYAGI STYLE）から派生して、 日本酒と一緒に楽しむ仙台牛 の輸出が実現。	 部位別提案（商談会）  日本酒とあわせて	○輸出量が回復する一方、生産量に占める割合は約1%であり、輸出の可能性は存在。 ○海外市場が求める 衛生基準に適合した食肉処理施設 からの輸出実績の積み上げが必要。	○一頭買いの推奨のほか、 プロモーションを通じた認知度向上 により、輸出を拡大。 ○仙台牛銘柄推進協議会など関係機関と連携し、 仙台牛の認定施設等 からの輸出増加を実施。	 ◎潜在需要の喚起 R6 ハンズオン支援事業（アジア） R6 日本酒の販路開拓・拡大（欧州）	
	④ いちご	○いちご生産者と輸出事業者、海外現地販売店（ドン・キホーテ）が連携し、 定期・定量輸出 を開始。 ○タイ、香港、シンガポール、マレーシア、台湾に拡大し、2024年4月には グアムへの初輸出 が実現。	 定期・定量輸出  包括連携協定	○県が目指している「 いちご100億円産地 」の育成に、輸出の面から貢献することが必要。 ○海外市場のニーズ把握しながら、輸出に取り組む 生産者と輸出量の拡充 を図ることが重要。	○生産者の増加に向けて、 勉強会や講習会 等を開催し、いちご輸出の将来展望を共有。 ○構築したバリューチェーンの改善と強化を支援し、「 いちごの輸出1億円 」を早期に実現。	 ◎連携協定の実行 R6 ハンズオン支援事業（いちご） （グアムへの初輸出）	
	⑤ 日本酒	○日本酒の特徴的な「香り」や「味」を分析し、 現地の食事とのペアリングを提案 （MIYAGI STYLE）。 ○主に欧州のソムリエなどを対象にしたセミナー、商談会を開催し、 理解の醸成 と継続的取引を実現。	 特徴を見える化  試飲・試食会／セミナー	○酒蔵の多くは海外への一貫した供給体制を持たないなど、 個別のプロモーションには限界 。 ○複数の酒蔵が連携し、適切に輸送、保管、供給する 仕組みを構築 していくことが必要。	○欧州の パートナー企業との関係強化 を中心に、日本酒の情報発信と取引拡大（ 定着 ）を促進。 ○海外事務所をはじめとする複数の交流基盤を活用し、 重層的に海外市場にアプローチ 。	 ◎ファンへの浸透 R6 日本酒の販路開拓・拡大（欧州） （スペイン市場への挑戦）	
	⑥ さつまいも	○J A全農みやぎが、仙台港から県産さつまいもの継続輸出を実施。品質保持と輸送日数の短縮を両立。 ○ 仙台港からの海上輸送 により、香港に輸出するバリューチェーンを構築。	 特産地視察  海上輸送	○さつまいもの作付面積は近年急増し、 産地化 を図る取組が推進。 ○ 海上輸送中の腐敗率の低減 に向けた対策と、輸出に必要な キュアリング施設が不足 。	○香港など海外での高い評価により、輸出量の拡大のほか、 新たな産地の形成 に期待。 ○輸出先国・地域や現地販売先の 需要に応じた商品開発 に取り組み、輸出を拡大。	 ◎輸出産地の形成 R6 大規模輸出産地モデル形成等支援事業	

- ジェトロ等の支援で香港へ販路を拓いた鶏卵の輸出が定着し、取引先の要望に応え、新たに**米の輸出を開始**。**仙台港を利用**。
- J A全農みやぎの「**仙台いちご®**」が、厳しい残留農薬基準値をクリアし、**仙台空港**から台湾向け輸出を実現。
- 宮城県産の梨と山形県産のぶどうを**混載**し、シンガポール向けに**海上輸送**による品質保持実証試験を実施。



商品混載による海上輸送 鶏卵の商流が米に拡大

- 海外のニーズに応えるマーケットイン型の輸出には、個々の事業者の取組に**限界**が存在。
- 「**物流の2024年問題**」や「**カーボンニュートラル**」を考慮した最適物流を考えることが必要。
- 品質の改善、**輸送中の品質維持**や**物流コストの低減**等に継続的に取り組むことが重要。

- 国や民間企業、自治体、大学などとの連携強化や、**デジタルマーケティング**を推進。
- 望ましい**輸送方法を具体化**し、航空便や海上輸送（コンテナ便）の特性及び可能性を提示。
- 東北産食品の混載**により**仙台港や仙台空港**から輸出する物流体制の構築。

- ◎**パートナーシップの充実**
- R5 仙台空港（空輸）の利用



目標指標	○海外販路開拓相談	●件以上／年	※数値目標は最終案で設定	○海外ビジネスマッチング支援	●件以上／年	《参考：2022実績》	294件	《参考：2023実績》	292件	《参考：2024実績》	- 件	次期戦略期間においても、気候変動の影響など不測の事態は起こり得るが、現戦略で取り組む民間企業等との連携、新市場の開拓、県境を越えた連携、物流の検証などの成果を活かし、協働するパートナーを増やしつづ、一層の輸出促進を図る。
	○輸出に取り組む県内企業数の増加	●件以上／年		○輸出商品の数	●件以上／年		76件		49件		- 件	
	○輸出商品の数	●件以上／年	●万円以上／年	○輸出総額	●件以上／年	267商品／40,172万円／19国・地域	15件	296商品／76,637万円／14国・地域	10件	- 商品／- 万円／- 国・地域	- 件	
	○輸出先国・地域数	●件以上／年		○輸出先国・地域数	●件以上／年		1件		1件		- 件	
	○生産・流通等の事業者連携によるバリューチェーン構築	●事例以上／年	●国・地域	○輸出先国・地域数	●事例以上／年	1事例	1事例		1事例		- 事例	
	○東北各県と連携した取組											